

## 三世代にわたる不平等の再生産メカニズム —世代間支援に着目して—

○俣野美咲（東京大学）

### 1. 問題の所在と研究目的

戦後日本社会では平均寿命が著しく延伸し、日本は世界でも有数の長寿大国となった。長寿化が進行したことで、人々のライフコースのなかで、親と子の二世帯だけではなく祖父母を含めた三世帯で関わる期間がより長くなっている。このような社会の変遷とともに、近年、祖父母世代も含めた三世帯での不平等の再生産について検討する必要性が指摘されるようになり、先行研究が蓄積されている。

しかし、「なぜ三世帯で不平等が継承されるのか」というメカニズムについては未だ十分に検討されているとはいえない。本報告では、祖父母・親・子の三世帯で不平等が再生産されるメカニズムの1つとして、祖父母から親、親から子といった世代間支援を通じた資源の移転に着目する。具体的には、(1) 祖父母からの支援が、親から子への支援を促進するか、(2) 祖父母に対する支援が、親から子への支援を抑制するか、(3) 祖父母からの支援、祖父母に対する支援と、親の階層の交互作用効果があるかの3点について検討する。

### 2. データ・変数

分析に使用するデータは、東京大学社会科学研究所が2007年より毎年実施している東大社研パネル調査の若年・壮年パネル調査(JLPS-Y, JLPS-M)のWave11~15(2017~2021年)のデータである。同調査データは、毎年回答者と親との関わり、回答者と子との関わりについて多くの情報を持つパネルデータであることから、本報告の分析にあたり最も適したデータといえる。

分析においては、回答者を親世代(G2)として、回答者の親を祖父母世代(G1)、回答者の子を子世代(G3)とする。分析対象は、回答者の父母(既婚の場合はこれに加えて配偶者の父母)のうち少なくとも1人が健在であり、子どもが1人以上いるケースとする。

従属変数となる親から子への支援は、調査時までの1年間に回答者が子どもにかけた教育費と定義する。独立変数の祖父母から親への支援は、調査時までの1年間に、回答者が自身の親あるいは配偶者の親から受けた経済的支援と定義する。親から祖父母への支援も同様に、調査時までの1年間に、回答者自身の親あるいは配偶者の親に対して行った経済的支援と定義する。

### 3. 分析結果・考察

分析の結果、次の3点が明らかになった。第1に、祖父母からの経済的支援があると、翌年に親は子どもにより多くの教育投資を行う傾向にある。第2に、祖父母からの経済的支援と親の階層の交互作用効果が確認され、祖父母からの経済的支援の影響は高階層でより顕著である。第3に、祖父母への経済的支援は、翌年の子どもへの教育投資に有意な影響を及ぼさない。この結果から、祖父母は親に対して多くの資源を与え、親はそれを活用してさらに多くの資源を子どもに与えるというプロセスで祖父母世代から子世代へと不平等が再生産されることが示唆された。

#### 【謝辞】

本研究は、日本学術振興会(JSPS)科学研究費補助金・特別推進研究(25000001, 18H05204)、基盤研究(S)(18103003, 22223005)の助成を受けたものである。東京大学社会科学研究所(東大社研)パネル調査の実施にあたっては、社会科学研究所研究資金、株式会社アウトソーシングからの奨学寄付金を受けた。パネル調査データの使用にあたっては東大社研パネル運営委員会の許可を受けた。

キーワード：三世代、世代間支援、格差・不平等